

自立創造

情報化社会の中で 11

暮らしが変わる

第1部

「今日の授業の目標は、CD-ROM（CD利用の読み出し専用メモリ）の使い方を覚えること。もう一つはマウスを速く動かすことです。先生の言葉に「ハイ」と元気にこたえる児童たち。パソコンやインターネットを授業に取り入れている北上市の黒岩小（佐藤みほ子校長、児童五十四人。二年生十一人の算数の授業のひとつ）まだ。

生き生き学習



主体性や表現力養う

ホームページ作りに取り組み盛岡白百合学園高の生徒たち。自分で考え、調べ、まとめる「主体性」がはぐくまれる

数人が一グループになり、スポーツ、美容、ペット、言葉など思い思いの内容をテーマにして熱心にパソコンに向かう。

チェコのアニメをテーマにした川口華奈子さん（三年）は、民主化運動など同国の歴史を調べ、アニメの発達や流行

佐藤校長は「これからめとした情報機器は切り離せない」と強調。「課題解決のために子どもたちが自分で調べる主体性、それをまとめて発表する表現力が養成される」と語る。言葉では説明が難しいところでも、パソコンでコンピューターグラフィックスや動画などを扱えば、児童の理解は早い。

マにした川口華奈子さん（三年）は、民主化運動など同国の歴史を調べ、アニメの発達や流行

トなどいろいろな調べているうちに、新しい発見や事実が分り楽しい」と笑顔を見せる。見回っていた小野寺俊博講師が一人の生徒の前で足を止め話しかけた。「自分の写真を勝手に他人に使われたら嫌だろう。他のホームページから無断で写真を取り込んだ場合の著作権の問題を指摘したのだ。技術的なことだけでなくネットを使う上でのマナーやエチケットにも気を配る。

「長方形は？」、「三角形は？」など質問が示され、児童たちはたくさんの図形の中から正解を探してマウスを操作する。速さをコンピューターと競争する仕組みになっており、「勝った」「やられ

たあ」とあちこちで歓声がわく。真剣なまなざしと笑顔。四十五分間の授業はあっという間に過ぎ

た。同校は一九九八、九九年度、市の「インターネットの調査研究推進校」で活用している。

に指定され、授業への活用や指導法などを研究。本年度から本格的に授業で活用している。

盛岡市の盛岡白百合学園高（水原洋子校長、生徒八百三十一人）。ホームページ作りの授業では

住所、電話番号、電報番号を明記し、岩手日報社報道部「自立創造」係にお寄せください。ファクスは019-623-1323、メールアドレスは「center@iwate-np.co.jp」です。